



老人健康農園で育てられた苗木をシャベルを使って掘り起こす。

岡方地区の長戸呂、大久保両自治会の通学路約二キロメートルにサツキの苗木を植えたフラワーポットが並べられています。
これは、財団法人自治総合センターが宝くじの普及のために行う助成事業で「緑化推進コミュニティ事業」といわれるものです。
今年は、サツキの花は一部しか咲きませんが、百日草、サルビアなどが鮮やかな色どりを添え、通学する子供たちをなごませています。

カメラ
花を
育てる
岡方地区のコミュニティ事業



家の前のフラワーポットの管理は、個人個人が担当。朝方や夕方には、水くれする人たちの姿があちこちで見られます。



サツキを見ながらの登下校で、話はずむ子供たち。



約50人集まった老人クラブの皆さんが、手際よくフラワーポットに苗木を移植。



苗木の成長をよくするため、根の土を洗い流す。

夏の味覚が真つ盛り

早通コミュニティ農園



早通コミュニティ農園は、枝豆、トマト、とうもろこしといった夏の野菜が今実りの真つ盛りです。
この農園は、市が水田利用再編対策のモデルケースとして、昨年六月にオープンしたものです。手ごろな広さに区切られた家庭用のミニ菜園は全部で四十七区画あり、それぞれが思い思いの作物を植え

ています。中には、農家の人に劣らないような出来映えの所も見受けられます。
畑の中で子供たちと草取りをしていた淡島正資さん（早通南一）は、「木崎農協の人が実地指導をしてくれるので助かりますね。今年は、新鮮ないちご、豆ごはんにするグリーンピースがよくできました。周りを見ると、やっぱり手間をかけている人の畑は出来も違うようです」と話していました。

先人たちの知恵と工夫を見る

蒲原の田下駄展開催中

とき 八月三十一日（金）まで
ところ 博物館（入場無料）
じかん 九時～十六時三十分
※土曜日の午後は休館

